生ごみをダンボールコンポストで資源に！！

ダンボールコンポストづくり実践編

準備するもの

ダンボール箱（二重構造のもの）（15kg のみかんの箱程度。ナフコで約 260 円にて入手可能）

基材　もみ殻くん炭（約 10 リットル。農協百円ショップで入手可能）

ピートモス（約 15 リットル。順天堂などで 20 リットルが 600 円程度）

又は腐葉土（約 15 リットル。庭の腐葉土でも良く近くの山で採取してもよい）

コンポストキャップ（虫よけカバ）

温度計（(微生物の活動を温度で知るため)（順天堂で 400 円程度で入手可）

撹拌スコップなど

作り方

① ダンボール箱はアリの侵入防止と補強を兼ねてつなぎ目をクラフトテープで補強

② ダンボール箱の底にダンボールを一枚か、新聞紙一日分を敷きつめ補強する

③ 置き場所は風通しのよい、雨の当たらないところを選ぶ下にダンボールの底の通風をよくするためにビール瓶の箱やポット苗の箱を置くと良い

④ ダンボール箱の中にもみ殻くん炭とピートモス又は、腐葉土を直接入れ撹拌しで準備完了

⑤ 作業は毎日生ごみを投入して拡販するだけ。外部から菌を入れるのではなく野菜くずや基材に付着しているさまざまな微生物が自然に生ごみを分解して堆肥化する仕組みです。ダンボールコンポストは分解のプロセスを上手に整えるので腐った臭いはほとんどしません

入れて良いもの悪いもの

・一回の投入量は 1kg 以下が目安

・野菜や果物の皮、へたなどの生ごみ

・スイカの皮、パイナップルの皮やマンゴーの皮

・卵の殻

・魚のアラや魚の頭、食べた後の魚の骨など

・魚のはらわた
・食用廃油（一度にたくさん投入しないこと）を投入すると微生物の活動が活発になり温度が上昇します
・天ぷらナベの残り油はキッチンペーパーで拭き取り、このキッチンペーパーを一日コンポストに入れて油を吸い取らせた後ペーパーだけ取り出してゴミに出します
・お茶ガラやコーヒーのドリップカスもOK
・アサリ貝のカラ（分解しませんが臭いは吸い取ります）
・カニの足やエビのカラなどもOK
・鳥の骨も完全には分解しませんが投入しましょう。きれいな骨だけになります
・米ヌカを入れると微生物の活動が活性化し温度が上がります
・賞味期限が切れたパン粉などは分解します
・玉ねぎの茶色い皮は分解しません
・庭の草は大量に入れると分解が間に合いません、５リットル程度入れて数日間様子を見ながら観察するのも面白いと思います。
・かぼちゃの種などはそのままでは分解しません。切れ目を入れておくと分化します

ワンポイントアドバイス

① 投入を始めてから二週間程度は微生物の活動が鈍く、すぐには活動（発酵）しません。生ごみを入れ毎日きちんとかき混ぜているうちに温度が上昇してきます
② 十分にかき混ぜないと酸素不足になり、臭いが出ることがあります（ダンボールコンポストで活躍する微生物は好機性菌です）
③ キッチンはさみなどで刻んでやると分解が早くなります
④ カビが発生しても好機性なのでそのまま撹拌を続けて下さい。そのうちに消えます
⑤ 虫よけネットをしっかりと掛けて下さい。ハエなどが卵を産みつけると虫がわきます。努力しても大量の虫が発生した場合は、中止して土に埋めて下さい
⑥ 投入三カ月もすると全体が粘ってきて撹拌が難しくなったら、投入を締め切りましょう。締め切ってもまだ生ごみが残っていますので、すぐ肥料としては使えません。さらに三カ月間、熟成させて完全に分解して肥料として使用しましょう。またプランタなど小さな場所に撒く場合は、鳥の骨や大きなものは取り除いてからにしましょう。
⑦ 旅行などで留守にする場合は、よくかき混ぜて、できるだけ涼しい場所におきます。ふたたび始めるときは暖かいところに置き、よく掻き混ぜて下さい

ダンボールコンポストでできた有機肥料を使うと

野菜は立派に育ちます。右の写真のピーマンは無農薬、無化学肥料で作っています。ダンボールコンポストの有機肥料、鶏糞などの有機肥料、川土手で刈り取って来た草などを施しています。

（財）山口県人づくり財団
環境学習部　環境パートナー　　石　川　　満　　（携帯電話：090-5701-6956）